



檜山医師会
道江差保健所・江差高等看護学院

伊 東 則 彦

町立上ノ国診療所

經 田 剛

幕末、伊勢松阪出の偉大な探検家・松浦武四郎による北海道命名から、昨年は150周年。これに対し、檜山においては蝦夷管領（鎌倉時代、蝦夷沙汰識・えぞさたしき、蝦夷代官・えぞだいかん、ともいう。北条得宗家御家人）、上ノ国守護（室町時代・津軽安東氏配下）、松前藩（豊臣期、江戸時代大名）等独自の蝦夷史があった。

【コシャマインの戦い（1457～1458年・室町時代）】

①概要：アイヌ対和人

戦乱の軸としては、アイヌ対和人の対立軸が多数説。概ね、狩猟民族であり、多勢・地の利大のアイヌに対し、和人が逆転辛勝・小差判定勝ちと憶測された。

②前半戦；和人館の総崩れ様（1457年）

アイヌ・コシャマイン父子軍が多勢優勢で、和人の道南十二館の大半●10ヵ所が落城、陥落し、2ヵ所（○上之国花澤館（かみのくに・はなざわだて）⑫と○下之国茂別館（しものくに・もべつだて）⑬）のみが辛うじて持ち堪えた。枢要な×大館（松前守

護）も陥落⑧。和人間には大きな衝撃、恐怖が蔓延したのではないかと思う。前半籠城戦ではアイヌ10-2和人の大差で、アイヌが圧倒的優勢。

全くの推測の域であるが、小規模の館籠城和人50人くらいで見積もると10ヵ所で計500人～千人以上の和人が犠牲になったと思われる。一説では、志苔館（志濃里館とも、しのりだて、函館市志海苔町）では和人300人が籠城防戦したが粉碎、ほぼ玉砕であった。

また、攻撃側のアイヌ（一説では、総軍勢計一万；東部アイヌ（日高アイヌ他）4千余、北部アイヌ（余市アイヌ他）2千余、西部アイヌ（内浦アイヌ他）3千余）、は、『攻撃三倍の法則、三対一の法則（攻撃側は防御側の3倍以上の兵力を要す・一般論）』より、これ以上のアイヌ死傷者が有ったと憶測される。少なくともアイヌ・和人計千名以上～数千の戦死者も考えられる。

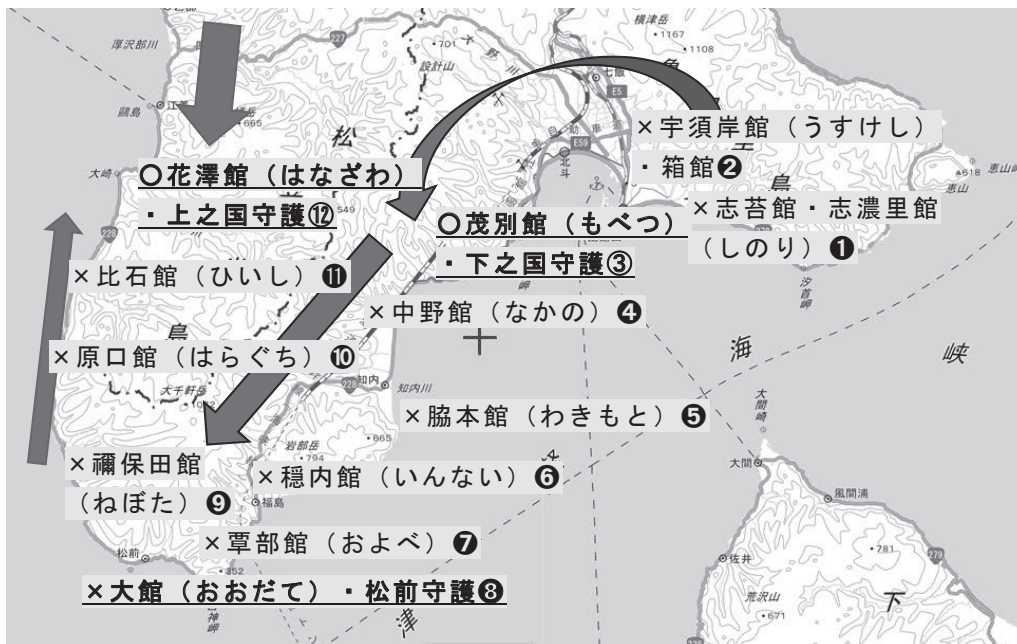
③後半戦；蠣崎信弘の反撃（1458年）

後半戦に上ノ国花澤館主蠣崎季繁のもとにあった蠣崎信弘（武田信弘）が反撃し七重浜（旧上磯町）にて奸計誘き出し、遂にコシャマイン父子を討ち取ったとされる。この勝利者総大将の蠣崎信弘の子孫が、松前氏へ改姓し松前藩（一万石格、幕末に三万石格）に繋がり、江戸時代を繁栄、生き抜いた。

コシャマインの戦いについて、戦場は、後志余市から胆振鶴川まで広範囲であった。特に、長万部国縫・国縫川でも大激戦の伝承がある。

④以後、蝦夷動乱期；アイヌ・和人の戦い争乱頻発

アイヌも敗戦後、後に、ショヤコウジ兄弟の戦い（1512年戦国期前半）、シャクシャインの戦い（1669～1672年江戸期前半）などアイヌと和人の紛争、戦乱は頻発した。



コシャマインの戦い（前半、1457年・室町時代）コシャマイン父子軍の攻勢と和人・道南十二館の大半落城。辛うじて『花澤館（上之国守護）⑫』と『茂別館（下之国守護）⑬』のみ2ヵ所残った。『大館（松前守護）⑧』も落城。（国土地理院地図に著者加筆）